

周知の保湿スキンケアの限界と正しい方法

皮膚バリアの要である細胞間脂質のラメラ構造を構成している脂質層脂質層が合成界面活性剤で溶解したり、紫外線と活性酸素の連携で過酸化脂質に変わったりすると、皮膚バリアが壊れます。このことが皮膚老化や他の様々な肌トラブルの原因であり、美しい素肌やトラブル肌の解消、化粧映えのする肌の実現を妨げる原因となっています。この問題は、広く知られている保湿スキンケア手順（洗顔後の化粧水・乳液・クリーム）ではこの解決できません。

リノール酸を含む合成界面活性剤を使用しないエマルジョン化粧品で、洗顔後に皮膚バリアを強化することが、皮膚老化や他の様々な肌トラブルを防ぎ、美しい素肌やトラブル肌の解消、化粧映えのする肌の実現を図る正しいスキンケアです。

●広く知られた洗顔後の保湿スキンケアの本質：

1. 化粧水：肌に水分を補給し、乾燥を防ぎます。乾燥は皮脂の過剰分泌を引き起こし、結果的に過酸化脂質の生成を促進する可能性があります。しかし、皮脂は皮膚バリアの要ではありません。皮脂が酸化して過酸化脂質になっても、ぬるま湯洗顔で落とすことができるため、大きな問題にはなりません。皮膚バリアの要は、細胞間脂質のラメラ構造を構成する脂質層です。この脂質層が合成界面活性剤で溶解したり、紫外線と活性酸素の連携で過酸化脂質に変わったりすると、皮膚バリアが壊れます。これが大きな問題です。化粧水で肌に水分を補給し、乾燥を防ぐというのは、あくまで補助的な役割として理解することが重要です。
2. 乳液とクリーム：適切な油分は、皮膚の表面に薄い膜を形成し、水分の蒸発を防ぎます。また、外部の酸素や紫外線から細胞間脂質のラメラ構造を構成する脂質層の酸化を防ぎ保護します。これにより、皮膚のバリアをサポートします。しかし、合成界面活性剤が浸透し、細胞間脂質のラメラ構造を構成する脂質層の脂質を溶解するため、皮膚バリアを壊すという相反することが起きますが、ほとんどの方はこの科学的事実を知りません。

●リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品

リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品を使用することは、確かに皮膚バリアを強化し、過酸化脂質の生成を抑えるために有効です。合成界面活性剤は、皮膚のバリア機能を損なうため、これを避けることは理にかなっています。

●まとめ

皮膚バリアの要である細胞間脂質のラメラ構造を構成している脂質層の過酸化脂質化による皮膚バリアの崩壊が、皮膚老化や肌トラブルの原因であり、一般的な保湿スキンケア手順（洗顔後の化粧水・乳液・クリーム）ではこの問題を解決できないのです。そのため、リノール酸を含む合成界面活性剤を使用しないエマルジョン化粧品を使って皮膚バリアを強化することが、正しいスキンケア方法です。